



網走市「学校給食調理業務民間委託」の方向示す！

(教職員等説明会資料)

学校給食は直営方式で地産地消を！

新年早々、学校給食の調理業務を民間委託するという驚くべき情報が入りました。教職員への説明資料に基づいて現状と調理業務の民間委託の流れについて見てみます。

網走市の学校給食調理場の現状は、自校単独方式は、白鳥台小、潮見小、西小、呼人小中の4箇所です。共同調理場（親子）方式は、東小↓4中、南小↓3中、網走小↓1中、中央小↓2中、西が丘小↓5中です。各小学校で調理して中学校に搬送しています。現在、給食調理は正職員とパート職員によって行われ、正職員は大規模調理場4箇所配置しています。

それを★東部地区調理場（東小、4中）と白鳥台小の調理場を廃止して南地区に集約する。★呼人小中学校調理場を廃止して潮見地区調理場として集約する。この2つの調理場の調理業務を民間委託するというものです。

今回の学校給食調理場の民間委託への背景は、市の財政難を理由に「行革」を行い、調理員が定年退職者で欠員が出て正職員の採用をせず、パート職員で補ってきた。そのため、正職員が減少し大規模調理場への配置が困難になり、パート職員のみ配置が5箇所となっているのが現状です。市は、このことを理由に「今後、安定的な継続が難しい状況にある」としています。松浦議員は、何よりも問題なのは、



小雪の舞う中スタンディング宣言する「ストップの会」の会員（12日、エコーセンター前）

成人おめでとう！ 誰も生きやすい社会を！

日本共産党議員団は、「市と教育委員会の議会に対する対応は、議会軽視と言わざるを得ない。また、保護者や教職員への事前の説明についても極めて不十分だと厳しく批判し、今後、議会において追求していくと同時に、市民運動も起こしながら民営化をやめさせる取り組みをしたい」と述べています。

松浦奮戦も！



村椿議員が、日本共産党第28回大会に参加するため13日の朝、

女満別空港から熱海に向けて出発しました。私も16年前の大会に参加しました。その大会でも党綱領が改定されました。今回も16年ぶりに改訂される予定です。特に中国については、①核兵器問題での変質、②東シナ海と南シナ海での覇権主義的な行動、③国際会議の民主的運営を踏みにじる横暴なふるまい、④人権問題が深刻化などから綱領の中の「今日、重要なことは、資本主義から離脱したいいくつかの国々にて、：社会主義をめざす新しい探求が開始され、人口が13億を超える大きな地域での発展として、21世紀の世界史の重要な流れの一つとなるうとしていくこと」との規定の全体を削除することが提案されます。私たちは、これでスッキリしました。大会の会場は山の中腹にあるため、急な坂を毎日45分ほど上り続ける必要がありますが、村椿議員は、ラガーマンなので楽々と登ることができ、身体も心も頭もすっきりして帰ってくるでしょう。

村椿駆けがる



14日から始まる日本共産党の大会に参加しています。リュックサックに

着替えを詰めて、伊豆学習会館までの道のりは駅から約35分間、標高差は580mを登る大変なものです。大会では野党共闘が進化する中、立憲・安住さん、国民・平野さん、社民・吉川さん、沖縄・伊波さん、碧水会・嘉田さん、特別ゲストの中村喜四郎さんから挨拶があった。立憲の安住さんは「国会運営や国政選挙で一体感のある協力をしていけば、自然とその先に政権が見えてくる」と挨拶があり、国民・平野さんは「安倍政権のもとで平和・公平・平等な社会が目の前で崩れ去るのを座視するわけにはいかない」と挨拶。元自民党の中村さんはトランプ大統領の危うさを指摘して、「野党は外交もしっかりしてほしい。力もつけて、外交も大丈夫と言うようになってほしい」と話していた。市民と野党の応援を力に、私たちの考えていることが広く伝わっていくように心を込めて話して行きたい。

流水

★2020年1月1日から腰痛のため1週間、歩くこともままならない年明けになってしまいました。同じ態勢で寝る事が出来ない中で、11日赤旗日刊紙に「労働環境がひどいとカンボジアでカジノ労働者3000人がストライキを行った」と言う記事が出ました。思わず「カジノがカンボジアにある?!」と、私は、びっくりしました。★カンボジアは1970年から22年間の長い間戦争が続きました。1975年から1979年にかけて、時のポル・ポト政権による200万人もの国民虐殺があり多大な困難があった国です。★現在総人口1601万人、平均年齢25.6歳、65歳以下の割合は96%と言う。一日210円で暮らす貧困層は800万人と推定されています。そんなカンボジアに『カジノ』がある。同国では格差が広がり、治安も悪いと言います。「流水」に投稿している『アスリート爺』が年末に「治安が悪く、日本人の金持ちと見られたら危ない」と、坊主頭にしてカンボジアに旅立ちました。★健全な経済発展と国民の生活環境の向上にカジノはいらない。北海道にも日本の何処にも『カジノはいらない』の声を上げ続けなければなりません。



菊地